

令和5年度 学校要覧

千代田区立千代田小学校 校長 渡邊 光一 副校長 丸山 文生 PTA会長 中澤 大 所在地 東京都千代田区神田司町2-16 電話 (3256)6768 FAX (5256)6822 最寄駅 JR神田 地下鉄神田、淡路町、小川町、新御茶の水		児童数と学級編成							
		学年	1	2	3	4	5	6	特支
学級数	2	2	2	2	2	2	4	16	
児童数	男	31	26	31	33	28	19	19	190
	女	37	20	30	25	29	24	6	168
	計	68	56	61	58	57	43	25	358
		開校記念日 2月26日							

教育の概要

学校・地域の特徴

学区は旧神田区と旧麴町区とにまたがる大変広い地域であり、神田駅前商店街や須田町問屋街、大手町・丸の内ビジネス街・有楽町商店街・日比谷公園等を含んでいる。ほとんどの児童は旧神田区から通学する。近年この地域はビル化が急速に進んでいるが、児童数は微増傾向にある。保護者の教育に対する関心は極めて高く、学校に対しても協力的である。

【教育目標】

人権尊重の精神を養い、地域社会の一員としての自覚を高め、変化の著しい国際社会の中で敬愛される次代の形成者の育成を期して、「確かな学力」「豊かな心」「たくましい心と体」をバランスよく育てることを理念とし、次の教育目標を設定する。

やさしく かしこく たくましく 未来を築く 千代田の子

学校教育目標の具現化に向け、「チーム千代田小」として組織的な教育活動を展開する。

【学校の教育目標を達成するための基本方針】

組織力を生かした教育活動の推進

- 学校経営ビジョンを明確にした学校経営計画の下、「チーム千代田小」として、組織的な教育活動を推進する。
- 学校評価システムに基づき、児童や教職員の実態と学校を取り巻く外部環境の強みと弱みを分析し、PDCAサイクルによる学校評価を生かした教育活動を展開する。
- 地域社会に開かれた教育課程による児童・教職員・保護者・地域が一体となった教育活動を展開し、公教育への信頼を獲得する。

①豊かな心の育成

- 人権教育を推進し、すべての教育活動を通して、あらゆる偏見や差別を許さない指導を意図的・計画的に実施する。
- 他者との豊かな関わり合いの場や機会を通して、礼儀・礼節、挨拶の指導の徹底を図る。
- 道徳教育の充実を図り、道徳的な価値を理解するとともに、豊かな心情を培う。
- 思いやりや規範意識を重んじ、いじめの未然防止と早期発見・早期対応を重視したいじめ防止の取組みを推進する。
- 異学年や特別支援学級との交流を図り、自己肯定感や自己有用感を醸成するとともに、児童一人一人への適切な支援を図り、集団に所属する喜びが実感できるよう、学級経営の充実を図る。
- 外国語活動や各教科等において日本の文化・伝統や世界の多様な文化に触れる機会を意図的に設定し、豊かな国際感覚を育てるとともにコミュニケーション能力の向上を図る。
- 持続可能な社会づくりのための課題解決に必要な「7つの能力・態度」のうち、特に⑤他者と協力する力の伸長を目指せる環境づくりを意識し、場の設定を行う。

②確かな学力の定着と豊かな学びの創造

- 児童一人一人の学習意欲を高め、学ぶ喜びや達成感を味わわせるため、学習規律の確立を徹底し、すべての児童が安心して学習に取り組める環境づくりを推進する。
- 基礎・基本の徹底を図るため、学力調査等の結果を活用し、児童の実態に応じた個別最適な学びを重視した指導体制のもと、少人数指導や個別指導の充実を図り、「わかる」「できる」指導の工夫を図る。
- 特別な教育的支援を必要とする児童の自立心や可能性を伸ばすことができるよう、児童に関わる全ての教職員と保護者が連携し、作成した教育支援シートに基づき個に応じた支援・指導をする。共生社会を目指し、インクルーシブ教育を進めていく。副籍交流も計画的に実施する。
- 通常の学級における特別支援教育の視点での「学びのスタンダード」を作成し、学校全体が共通理解をし、個に応じた支援を行う。
- 一人一台タブレット端末を活用し、児童の学習意欲の向上を図るとともに、学習進度等に応じて指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う。

- ICTを活用した魅力ある教材による学習の充実を図るとともに、情報モラルに関する指導を家庭との連携を図りながら推進する。
- 課題解決の過程を重視し、児童相互の学び合いやグループ活動など協働的な学びを意識した学習形態や指導体制の工夫・改善を図るとともに、適正な評価を組織的に進める。
- 課題について自ら考えたり、判断したり、表現したりする力を育成するため、体験的な活動や話し合い活動を充実させ、身に付けた知識・技能を活用する学習活動を推進する。また、主体的・対話的で深い学びの実現のために授業力の向上を図るとともに、教科横断的な視点で編成したカリキュラム・マネジメントを確立していく。
- ③たくましい体、しなやかな心の育成
- 体力・運動能力調査の実施と結果分析から体力向上の取組みを推進するとともに自ら運動に親しむ態度を育て「わかる・できる」体育学習を展開する。
- 健康教育の推進を図り、望ましい食習慣や運動習慣をはじめとする基本的な生活習慣の確立や健康・安全に関する正しい知識の獲得と思考力・判断力を育てる。
- 自他の生命を守るための態度や行動力を育成するため、災害時に備えた避難訓練の見直し・改善を行い、関係諸機関と連携した体験的な取組みを推進し、防災教育の一層の充実を図る。
- アスリートとの交流を通して、運動やスポーツに親しみ、フェアプレー精神などのスポーツ志向を高める。また日本人としての自覚や誇りも育てていく。
- ④地域や関係機関と連携した地域学校協働活動の取組の推進
- 学校運営協議会や神田さくら館コミュニティスクール企画運営委員会、PTA等の学校関係諸団体との密接な連携を図り、児童の安心・安全の確保を促進するとともに、「地域での学び」の場や機会を設定する。
- 巡回アドバイザーやスクールカウンセラーだけでなく、児童家庭支援センターやスクールソーシャルワーカーとの連携を図り、児童が安心して学校生活を送れる体制を構築する。
- 社会規範を尊重し、地域に貢献する態度を養うため、地域における交流活動や奉仕活動を充実する。
- 神田祭や地域行事等、地域の伝統文化や人材を生かした体験的な学習の充実と探究的な学びを展開するとともに、2020 東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを尊重した教育を計画的に推進する。
- 地域企業や商店街、官公庁関係者等、あらゆる人材を活用した授業づくりを推進し、夢のもてるキャリア教育の充実を図る。
- 「1年なかよし会」や「5年交流授業」などを通し、保育園児や幼稚園児との交流を促進し、保幼小との滑らかな接続を図るとともに、関わり合いを通じて自尊感情を育てる。スタートカリキュラムでは接続を意識し、幼稚園と連携して計画し実施する。

【指導の重点】

(1) 各教科、特別の教科道徳、外国語・外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

- 確かな学力の定着に向け、学校全体で共通の学習規律・学習ルールである「千代田小 学びのスタンダード」に基づき、指導の徹底を図り、全児童に望ましい学習習慣や態度を養う。
- 基礎的・基本的な知識及び技能の定着徹底を図るため、学力調査等の結果に基づき、東京ベーシック・ドリル等を活用し、指導方法の改善・工夫に取り組む。また、「思考力・判断力・表現力の育成」を重視した学習過程の構築及び指導方法の工夫・改善を行う。
- 個々の児童の習熟の実態・興味・関心等に応じて、区の教育活動支援講師を効果的に活用した少人数指導やティーム・ティーチングを取り入れるとともに、個に応じた指導の充実を図り、児童一人一人が「できる」「わかる」体験を積み上げる。
- 教科等の学習内容や単元の構成に応じ、問題発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を取り入れ、知識・技能の定着を図るとともに、多面的・多角的な見方や深く思考する姿勢を養う。
- 5・6年生の外国語については、年間を通した短時間学習で27時間行う。8時間の不足分を土曜日の4時間とその他の時間に行い、35時間分を確保する。千代田区小学校外国語カリキュラムと教科書を併用し、指導の効果を高めるよう工夫する。
- 学習内容の理解の促進や問題解決への情報収集活動等に一人一台タブレット端末を効果的に活用する。また、家庭とも連携した情報モラル教育を計画的に展開し、児童が情報機器を適切に活用する力を育成する。
- プログラミング教育の年間計画に沿って、各学年が発達段階と実態に合った取組みを実践しながら、各教科のどの単元で学ぶのが有効かを探りながら実際に取り組む。
- 都の体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果分析に基づき、体育朝会及び体育的な活動に継続的に取り組み、楽しみながら個々の児童の体力向上を目指す。また、積極的にコーディネーショントレーニングを取り入れる。

イ 特別の教科 道徳

- 人権教育の視点を取り入れるとともに、道徳的価値についての理解を深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。
- 「特別の教科 道徳」の指導を通して、人と人とのつながりを大切にし、他者への思いやりの心を育むことを目標に、学年の発達段階に応じた資料及びその他多様な教材や地域人材等を活用するとともに、道徳的行為に関する体験的な活動等を取り入れ、指導方法を工夫する。
- 全学年共通の重要項目「B 親切、思いやり」
 - 1年 B 親切、思いやり C 規則の尊重
 - 2年 B 親切、思いやり C 規則の尊重
 - 3年 B 親切、思いやり C よりよい学校生活、集団生活の充実
 - 4年 B 親切、思いやり C 規則の尊重
 - 5年 B 親切、思いやり C 規則の尊重
 - 6年 A 希望と勇気、努力と強い意志 B 親切、思いやり

- 地域や保護者が主体的に参加する道徳授業地区公開講座を実施し、共に子どもたちを支え・見守り、育む心の教育を推進する。
- 心の教育コーディネーターを活用し、道徳授業地区公開講座の学習指導案検討や授業参観、振り返りの指導講評の時間を確保し、より充実した心の教育を目指す。

ウ 外国語・外国語活動

- 児童が、自国及び他国の言語や文化等について体験的に理解を深めるために、担任とALTが連携した授業を展開する。
- 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けさせる。
- TGGの体験学習を通して主体的に外国語でコミュニケーションを図る態度を養う。
- 5・6年生においては年間を通して教科書を活用して短時間学習を実施し、意図的・計画的に英語に触れる機会を設定する。

エ 総合的な学習の時間

- 児童の疑問や関心に基づき、自ら課題を見付け、体験的活動や調べ学習を行い、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通し、主体的に判断し、これまで獲得した知識・技能を生かして課題解決を図るような、思考力・判断力を育成する。
- 児童が課題に対し興味をもち、積極的に課題発見・解決を図るよう、実社会や実生活に関わる事柄から発達段階に応じた課題を設定し、多様な表現を通じて他者と対話し、思考を広げ深めさせ、様々な場面で活用できる汎用的な能力を養う。
- オリンピック・パラリンピック教育の「世界ともだちプロジェクト」を総合的な学習に位置付けて取り組み、豊かな国際感覚を醸成し、世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重する姿勢を身に付けさせる。
- 地域人材等を活用し、体験的・探究的な学習を通して、地域の伝統行事や文化をはじめとする我が国の伝統文化への造詣を深め、尊重する態度を培う。

オ 特別活動

- 特別活動を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、教科等との関連を図りながら、全体計画及び指導計画を策定する。
- 集団の一員としての自覚や他者の意見を尊重する姿勢と、よりよい人間関係を自主的・実践的に築こうとする態度を育成するため、学級活動、児童会活動、クラブ活動、地域清掃等のボランティア活動、異年齢集団と関わる縦割り班活動での活動の充実を一層推進する。また、活動による自己の変容や成長について振り返りができるよう、キャリア・パスポートを活用する。
- 児童会を中心とした、学校全体に関わる行事等の運営から、よりよい学校づくりに向けて協力し、課題解決を図る実践的態度を養う。
- 校内オリエンテーリングや縦割りロング集会等を通して、高学年児童には自主的に運営する力や下級生を思いやる気持ちを育成する。また、下級生には上級生を尊敬する気持ちや協力する態度を育成する。

(2) 特色ある教育活動

- 教育支援シートを作成し、巡回アドバイザーやスクールカウンセラーとの連携を図りながら、個々の児童の実態に応じた指導や対応を推進する。
- 通常の学級と特別支援学級の児童との交流及び共同学習を、各児童の実態や特性に応じて積極的に行い、障害の有無にかかわらず、多様性を尊重する態度を育成する。
- 縦割り班活動や保幼小連携による交流学習を継続し、異年齢集団との関わりを通して自尊感情を育成する。
- 図書館司書と連携しながら読書活動の充実を図る。「読書アプリ Yomokka!」の活用を推進する。
- 地域人材を活用し、三味線や神田祭など日本の伝統文化を体験的に学び、そのよさや継承していく大切さを理解し、自国の文化への誇りをもち、発信するための取組みを推進する。
- オリンピック、パラリンピアンやスポーツ選手等との交流から、スポーツのよさや運動する楽しさ、失敗を恐れず忍耐強く練習する姿勢や栄養と休養の大切さを学び、自らの体力向上や健康づくりへ意欲的に取り組む態度を育む。
- 地域企業と連携し、企業の有する専門性や技術力を活用したキャリア教育及び健康教育を推進し、実生活に生かしたり、自らの生き方を考えたりし、一人一人のキャリア形成を目指す。

(3) 生活指導・進路指導

ア 生活指導

- 千代田小生活のスタンダードを作成し、全校で取り組み、学校のルールを主体的に守れるよう指導する。
- 学校生活アンケートの調査結果や学級経営アドバイザーを活用し、互いを尊重し合う人間関係づくりと自己肯定感や自尊感情を高める学級経営に向け、改善を図る。
- いじめや差別、不登校等の課題の未然防止と早期発見のため、生活指導全体会や児童理解朝会等で教職員の情報を共有する。特にいじめについては、早期発見・解決に向け、千代田小学校の「いじめ防止基本方針」に則り、体制や手順の教職員の行動の一元化を図り、組織的に対応する。
- いじめについての無記名アンケートを年3回以上実施し、いじめの早期発見に努め、早期に対応する。また、高学年を中心にスクールカウンセラー等による全員面接を行い、いじめの未然防止、早期発見につなげる。
- 中学年以上にフレンドシップサポート事業を活用し、児童のよりよい人間関係構築への働きかけを行う。
- 登下校時のあいさつ等の礼法指導を教職員の共通認識の上行う。一層すすんであいさつができる児童の育成に努める。
- 自己の心身の健康・安全についての高い意識と正しい知識をもたせ、望ましい生活習慣を確立するための、思考力・判断力を養う。外部講師を招いてがん教育を実施する。
- 児童の安全確保に向け、教職員の危機管理意識を高め、災害時や事件、事故等に対する危機管理体制と行動についての認識を共有し、組織的に対応する。
- 生活安全や交通安全、防災などについて、児童自らが自身の命を守る行動がとれるよう、実践力を身に付ける教育にあたる。
- 警察・消防などの関係諸機関と連携し、様々な事態を想定した避難訓練やセーフティー教室、SNS ルールを含めた情報モラル等の指導を行い、児童自ら危険を予測し、回避する能力を身に付けさせる。
- 虐待や性犯罪は子どもの人権を侵害する重大な問題であることを認識し「生命(いのち)の安全教育」を充実させる。

イ 進路指導

- 全教育課程を通して、自己肯定感を醸成し、自己理解を進める取組みの中で、他者とよりよい関わりを希求する姿勢を育む。

- 発達段階に応じ、様々な地域人材や企業等を活用した授業を行い、各児童に将来への期待と共存意識をもたせ、自己実現を図る態度や能力の育成を目指す。
- キャリア・パスポートを作成し、自己を見直し、今後の人生を見通す機会をもつ。進学先中学校の担任とも共有する。
- 地域とのかかわり、地域企業との連携、またオリンピック、パラリンピアン、スポーツ選手との交流を通して一人一人の就労観、職業観を育てる。

特別支援学級

【特別支援学級の教育目標】

心身の障害の状態や程度に応じて、日常生活に必要な基本的な生活習慣と基礎的知識・技能を習得することにより、社会的自立のできる児童の育成を目指し、次の目標を設定する。

- 人と豊かに関わる子を育てる。
- 様々な学習に意欲的に取り組む子を育てる。
- 身体を動かす喜びを知り、健康的な生活を送ろうとする子を育てる。
- 体験や経験を通して、自分からすすんで行動しようとする子を育てる。

【学校、学級の目標を達成するための基本方針】

組織力を生かした教育活動の推進

- 学校経営ビジョンを明確にした学校経営計画の下、「チーム千代田小」として、組織的な教育活動を推進する。
- 学校評価システムに基づき、児童や教職員の実態と学校を取り巻く外部環境の強みと弱みを分析し、PDCAサイクルによる学校評価を生かした教育活動を展開する。
- 設置校としての魅力を最大限に生かし、地域社会に開かれた教育課程による、児童・教職員・保護者・地域が一体となった教育活動を展開し公教育への信頼を獲得する。

①豊かな心の育成

- 人権教育を推進し、すべての教育活動を通して、あらゆる偏見や差別を許さない指導を意図的・計画的に実施する。○交流及び共同学習や地域の方など他者との豊かな関わり合いの場や機会を通して、礼儀・礼節や挨拶の指導の工夫を図る。
- 道徳教育の充実を図り、障害の種類・程度に応じた体験的な活動や学習形態を工夫し、豊かな人間性と他者を思いやる心を育てる。
- 思いやりや規範意識を重んじ、いじめの未然防止と早期発見・早期対応を重視したいじめ防止の取組を推進する。
- 各教科等や学校行事等を通じた交流及び共同学習を通じて、自尊感情や自己肯定感を醸成するとともに、教育支援シートに基づく適切な指導・支援を図り、集団に所属する喜びが実感できるよう、学級経営の充実を図る。
- 各教科や各教科等を合わせた指導において日本の文化・伝統や世界の多様な文化に触れる機会を意図的・計画的に設定し、豊かな国際感覚を育てるとともに、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 持続可能な社会づくりのための課題解決に必要な「7つの能力・態度」のうち、特に⑤他者と協力する力の伸長を目指せる環境づくりを意識し、場の設定を行う。
- 生命の尊さを学び、生命を大切に考える考えや一人一人を尊重する態度を発達段階に応じて身に付けるために、生命の安全教育を進める。

②確かな学力の定着と向上

- 児童一人一人の学習意欲を高め、学ぶ喜びや達成感を味わわせるため、学習規律の確立を徹底し、すべての児童が安心して学習に取り組める環境づくりを推進する。
- 基礎・基本の徹底を図るため、発達検査の結果や児童の実態に基づき教育支援シートを作成し、個別最適な学びを重視した指導の充実を図り、「わかる」「できる」指導の工夫を図る。
- 児童の自立心や可能性を伸ばすことができるよう、児童に関わる全ての教職員と保護者が連携し、作成した教育支援シートに基づき個に応じた指導・支援を行う。学校行事や学習活動の中で、通常の学級との交流の機会を通し共生社会を目指し、インクルーシブ教育を進めていく。
- 個別最適な学びや協働的な学びに向けて、視覚的な支援教材としての利用や話し合いのためのツールとして一人一台タブレット端末を活用し、児童の学習意欲の向上を図るとともに、学習進度等に応じて指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う。
- ICTを活用した魅力ある教材による学習の充実を図るとともに、情報モラルに関する指導を家庭との連携を図りながら推進する。
- 課題解決の課程を重視し、児童相互の学び合いやグループ活動など協働的な学びの実現を目指した学習形態や指導体制の工夫・改善を図り、適正な評価を組織的に進める。
- 課題について自ら考えたり、判断したり、表現したりする力を育成するため、体験的な活動や話し合い活動を充実させ、身に付けた知識・技能を活用する学習活動を児童の発達段階を踏まえながら推進する。また、主体的・対話的で深い学びの実現のために授業力の向上を図るとともに、教科横断的な視点で編成したカリキュラムマネジメントを確立していく。

○学習形態や指導体制の工夫・改善を図るとともに、適正な評価を組織的に進める。

③たくましい心と体の育成

- 日常的に体力向上の取組を推進するとともに、運動ができるようになる楽しさや協力して運動する喜びを味わえる体育学習を展開する。
- 健康教育の推進を図り、望ましい食習慣や運動習慣をはじめとする基本的な生活習慣の確立を図っていく。また健康・安全について正しく理解させるとともに、家庭との連携を図りながら児童の自立を促す。
- 自他の生命を守るための態度や行動力を育成するため、災害時に備えた避難訓練の見直し・改善を行い、関係諸機関と連携した体験的な取組を推進し、防災教育の一層の充実を図る。
- アスリートとの交流や運動やスポーツに親しみ、フェアプレー精神などのスポーツ志向を高める。また、日本人としての自覚や誇りも育てていく。

④地域や関係機関と連携した取組の推進

- 学校運営協議会や神田さくら館コミュニティ・スクール企画運営委員会、PTA等の学校関係諸団体と密接に連携し、児童の安全・安心の確保を図るとともに、「地域での学び」の場や機会を設定する。
- 地域学校協働活動を推進し、地域や地元企業との連携を図り、一斉清掃を共に行う活動や人材や資源を活用した特別授業に参加する等、体験的活動を通して問題発見・問題解決能力を養う。
- 社会規範を尊重し、地域に貢献する態度を養うため、地域における交流活動や奉仕活動を充実する。
- 神田祭や地域行事等、地域の伝統文化や人材を生かした体験的な学習の充実と探究的な学びを展開するとともに、学校2020レガシーと位置付け計画的に推進する。
- 地域企業や商店街、官公庁関係者等、あらゆる人材を活用した授業づくりを推進し、夢もてるキャリア教育の充実を図る。
- 巡回アドバイザーやスクールカウンセラーだけでなく、児童・家庭支援センターやスクールソーシャルワーカーとの連携を図り、児童が安心して学校生活を送れるよう、家庭との協力体制を構築する。
- 「1年なかよし会」などを通し、保育園児や幼稚園児との交流を促進し、保幼小との滑らかな接続を図るとともに、関わり合いを通じて自尊感情を育てる。スタートカリキュラムでは幼稚園と連携して計画し実施する。
- センター校である特別支援学校と連携して、児童の行動観察、教員への助言や研修の機会を通し教育活動の充実に努める。

【指導の重点】

【各教科、特別の教科道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動】

ア 各教科

- 確かな学力の定着に向け、学校全体で共通の学習規律・学習ルールである「千代田小 学びのスタンダード」に基づき、指導の徹底を図り、全児童に望ましい学習習慣や態度を養う。
- 国語・算数などの各教科では日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得を目指し、一人一人の発達程度に応じて教育支援シートを作成・活用し、段階的・系統的に指導を進める。児童の実態や編成したグループの実態に合わせて教材、教具を工夫し作成する。
- 児童が意欲をもって主体的に学習を進めていくために、教科の特性、児童の実態を考慮して、個別学習、少人数での学習、一斉学習と様々な学習形態を活用する。
- 一人一人の興味・関心を高め、集中して学習に取り組めるようにするために、発達段階に応じた活動を取り入れる等、指導内容や方法を工夫する。
- 社会性や協調性を養うようにするために、学習活動の中に体験的な活動を取り入れるなどして児童同士の関わりを促す。
- 分かる授業づくりに向けて、発問や板書、掲示物を工夫するとともに、教材提示場面等でICT機器や視覚的支援の教材などを効果的に活用する。
- 学習内容の理解の促進や問題解決への情報収集活動、視覚的な支援教材としての利用、話し合いのためのツール等に一人一台タブレット端末を効果的に活用する。また、家庭とも連携した情報モラル教育を計画的に展開し、児童が情報機器を適切に活用する力を育成する。
- 音楽や体育、図工においては、講師を活用した指導体制の中で、学年及び児童一人一人の発達段階に応じた指導を行い、豊かな情操と表現力を養う。
- 心身共に健康な体をつくり、体力をつけるために、体育朝会及び体育的な活動の中に持久走の運動や多種多様なスポーツ、運動操作の基本、遊びやゲーム等を取り入れていく。また、朝の体作りの時間等で、コーディネーショントレーニングを取り入れる。
- 児童に継続的な読書習慣の定着や本に親しむ心を育成するために、まちかど図書館や図書館司書との連携を充実させ、週に1時間程度の図書の時間を確保する。
- ICT機器の操作を児童自身が身に付けることができるようになる等、発達の段階を考慮し、学びの基盤となる能力を教科等横断的な視点で指導を行う。

イ 特別の教科 道徳

- 道徳科の授業を通して、「自分ならどのように行動するか」という視点をもって思考と判断を促す授業を構成する。
- 指導する内容や場面によっては、障害の種類や程度・状態に応じて学習グループを編成し、発問や学習活動を児童の実態に合わせる。
- 「思いやりの心」、「協力」の心情や態度を育むために、発達段階や障害の状態に応じて、道徳科の時間を要としながら、各教科等を合わせた指導や休み時間、給食時間なども含め学校生活全体の具体的な場面を通して支援し、道徳的実践力の育成を図る。
- 児童の発達段階に応じて動作化、役割演技、ソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れ、思考力、判断力、表現力の基礎を養う。
- 地域や保護者が主体的に参加する道徳授業地区公開講座を実施し、共に子どもたちを支え、見守る心の育成を推進する。
- 心の教育コーディネーターを活用し、道徳授業地区公開講座指導案の学習検討や授業参観、振り返りの指導講評の時間を確保し、より充実した心の教育を目指す。
- 評価に関しては、一人一人のよい点や可能性等の多様な側面、進歩の様子等を把握し、1年間にわたって児童がどれだけ成長したかという視点を大切に評価を行う。

ウ 外国語活動

- 外国語活動は、各教科等を合わせた指導の生活単元学習において行う。
- 自己を表現する力やコミュニケーション能力を育むために、ALTとの連携を図り、簡単な対話形式のゲームを取り入れた活動を行う。
- コミュニケーションの基礎となる単語に親しむために、食べ物や色、曜日等の日常で使う単語も多く取り入れた活動を展開する。
- 外国語による歌やダンスを取り入れた活動を通して、外国の言語や文化に親しむ。
- 各教科等の要素と関連付けて、国語とは単語や様子を表す言葉、算数とは数や形や色、音楽とは歌等、教科等を合わせた指導の時間の中で指導する。
- TGGの体験学習を通して主体的に外国語でコミュニケーションを図る態度を養う。

エ 総合的な学習の時間

- 日本の伝統文化に親しみ、自己の表現力を高めていくために、外部講師を活用した和太鼓による体験的な学習を行う。
- 地域人材等を活用し、体験的・探究的な学習を通して、キャリア教育について学び、将来に向けて働くことの意識を高める機会を設ける。
- スポーツに親しみ、国際社会への関心を高めるために、学校 2020 レガシーに取り組む。
- 学校 2020 レガシーの教育活動では、「世界ともだちプロジェクト」を総合的な学習に位置付けて取り組み、豊かな国際感覚を醸成し、世界の多様性を知り、様々な価値観を尊重する姿勢を身に付けさせる。
- 児童の疑問や関心に基づいた調べ学習を行うために、ICTサポーターと連携を図り、タブレット端末を活用する。

オ 特別活動

- 集団の一員としての自己をよりよく生かすことができるように、一人一人の個性や得意なことを生かして活躍できる場面を設定し、互いに認め合うようにする。
- 望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画するために、学級活動・児童会活動・クラブ活動・地域清掃等のボランティア活動等を充実させ、児童が実際的な活動に主体的に取り組めるようにする。
- 集団生活の楽しさや適切な行動力を体得させるために、児童集会や縦割り班活動、各行事等における活動に参加し、社会性やコミュニケーション能力を育てる。
- 1学期に「なかよし遠足」を実施し、1年生の入学と在校生の進級を喜び、学級間での親交を深める。また3学期には卒業する6年生との「お別れ遠足」を実施し、卒業を祝う心情を育むとともに、次年度へ向けての意識をもたせる。

カ 自立活動

- 個々の児童の状態や発達段階等を的確に把握し、適切な指導計画の下、障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服し、将来の自立に向けた社会参加の力を養う。
- 一人一人が将来自立していくことができるように、家庭と連携しながら生活のリズムを形成し、日常生活に必要な知識や身体の動きを獲得できるよう支援する。
- 学校生活の中で、学習や行事を通し様々な経験・体験をすることで、自分の気持ちをコントロールして変化する状況に適切に対応できるようにするとともに、活動への参加意欲の向上を図る。
- 集団の雰囲気に合わせて、集団に参加するための手順やきまりを理解したりして、遊びや集団活動などに積極的に参加できる機会を設ける。

- コミュニケーションを通して、事物や現象、自己の行動などに対応した言語の概念の形成を図り、生活に使用できる言語を身に付けることができるよう支援する。
- 児童一人一人の実態に合わせ、将来の自立に必要な知識や身体の動きを獲得するための時間として、継続的な自立活動の時間を各教科及び各教科等を合わせた指導の中で設ける。

キ 各教科等を合わせた指導

- 心身共に健康で安全な生活態度を育むために、朝の支度や着替え、食に関する知識や作法といった基本的な生活習慣を継続的に指導する。
- 金銭のやりとりや社会性を身に付けていくために、調理学習や買い物学習などを計画的かつ系統的に実施していく。
- 植物や動物に触れる学習や、学校の周りや地域の様子について考える学習等、体験的活動を通して自ら進んで学習しようとする態度を培う。

【生活指導】

- 学校で安全・安心な生活を送れるようにするために、「千代田小生活スタンダード」を基に指導する。
- 校内の全教職員や児童・家庭支援センター、医療機関、巡回アドバイザー、特別支援学校の特別支援教育コーディネーター等とも連携をより深めながら、教育活動の充実に努める。
- 基本的な生活習慣を身に付けるために、教育活動全体を通じて日常生活に必要な知識や技能について指導する。
- 集団生活での約束やルールを守る大切さを理解できるように、当番や係活動などを通して社会性を身に付けさせる。
- 児童が安心した学校生活を送ることができるように、スクールカウンセラーとの個人面談やアンケートの実施により実態を把握するとともに、本校の「いじめ防止基本方針」に従い、家庭と連携をとりながらいじめや差別、不登校の未然防止・早期発見・早期対応を心がける。
- 登下校のあいさつ等の礼儀作法指導を教職員の共通認識の上で行う。一層すすんであいさつができる児童の育成に努める。
- 自己の心身の健康・安全についての意識と正しい知識をもたせ、望ましい生活習慣を確立するための、思考力・判断力を養う。外部講師を招いてがん教育を実施する。
- 児童の安全確保に向け、教職員の危機管理意識を高め、災害時や事件、事故等に対する児童への指導について危機管理体制と行動についての認識を共有し、組織的に対応する。
- 警察・消防などの関係諸機関と連携し、様々な事態を想定した避難訓練やセーフティー教室、SNS ルールを含めた情報モラル等の指導を行い、児童自ら危険を予測し、回避する能力を身に付けさせる。
- 虐待や性犯罪は子どもの人権を侵害する重大な問題であることを認識し「生命(いのち)の安全教育」を充実させる。

【進路指導】

- 一人一人の児童が将来への期待をもち、社会生活に必要な知識・技能を獲得するため、個に応じて学習内容を工夫し、将来を見すえた指導・支援を進める。
- 総合的な学習の時間等の各教科・各領域、合わせた指導をとおして、自分の将来を考える契機となるよう、様々な職業について、知識、理解、興味や関心を深める指導を行う。
- 将来の余暇の過ごし方につながるよう、生活単元学習の他、休み時間を通して、児童の興味や関心を広げる指導を行う。
- 児童の将来への自立に向けて、発達段階に応じた登下校の方法について保護者と連携を図り指導する。
- キャリア・パスポートや教育支援シートを活用し、今後の人生を見通す機会をもつ。
- 地域とのかかわり、地域企業との連携、またオリンピック、パラリンピアン、スポーツ選手との交流を通して一人一人の就労観、職業観を育てる。

【教育目標達成のための特色ある教育活動・その他の配慮事項等】

- 同じ障害のある児童が、頑張りや認め合いお互いを高めあう機会を作るために、近隣の小学校特別支援学級と交流活動を行う。
- 日本の伝統文化に親しみ、自己の表現力を高めていくために、外部講師を活用した和太鼓やダンスによる体験的な学習を行う。
- 体力の向上や情報活用能力を高めるために、プールや図書館などの複合施設の有効活用を図る。
- 通常の学級の児童との相互理解と心の交流をよりいっそう充実させていくために、遠足等の各学年の行事への参加や、各教科等の学習、給食の時間における交流等を計画的に行う。そうした交流を円滑に進めるために、通常の学級の担任と連携を密に取りながら、計画的に特別支援学級の児童に対する理解と啓発を行う。
- 生命の尊さへの気付きにつながるように、生き物や植物の観察・調理など、自然と直接触れ合う多様な体験の機会を設ける。
- 教育支援シートを活用し、保護者との連携を図り、個に応じた指導の充実に努める。
- 地域人材を活用し、三味線を弾いたり神田祭について学んだり等、伝統的な地域行事を積極的に児童に知らせるとともに、体験を通じて地域への理解を深め、神田の町や人情のよさを感じさせるようにする。
- オリンピック・パラリンピックのレガシーを引き継ぐための教育活動(学校 2020 レガシー)に取り組み、オリンピック選手等を招き、その生き様やスポーツの素晴らしさを実感させ、自らも積極的に関わろうとする態度を養う。

学校施設・規模一覧

現校舎	起工 平成7年12月6日 竣工 平成10年2月16日	教室	普通教室	12教室、特別支援教育関係 9教室
校舎面積	鉄筋コンクリート地下2階 地上7階		特別教室	9教室 音楽室、コンピュータ室、理科室、図工室、児童会室、図書室、家庭科室、ランチルーム
敷地面積 延床面積	3,379.20 m ² 9,392 m ²		温水プール	25m×9m、4コース、水深1.6m（可動床）
運動場	屋内 370m ² 屋外 1,300m ² 合計 1,670m ²	管理室・その他		校長室、職員室、会議室、保健室、学年ホール、事務室、給食調理室、多目的ホール、記念室、放送室、印刷室、PTA室、備蓄倉庫、他

年間行事計画

4月	始業式 入学式 歯科健診 全国学力調査(6年) 1年生を迎える会 眼科健診 内科健診 地域班会議 周年航空写真撮影	10月	孺恋自然体験交流教室(5年) 視力検査 たてわりロング集会 校内オリエンテーリング 生活科見学(2年)社会科見学(6年) 道徳授業地区公開講座 就学時健康診断
5月	区達成度調査(4・5・6年) 視力検査 神田祭 消防写生会 自転車教室 コーディネーショントレーニング 歩き方教室(1年 3組) 都学力調査(4・5・6年) 水泳指導開始 耳鼻科健診 個人面談	11月	学芸会 生活科見学(1年) 社会科見学(4年6年) 連合音楽会(4年)
6月	箱根移動教室 よい歯の表彰 体力テストたてわりロング集会 土曜公開日 防災教育 引き渡し訓練 社会科見学(3年5年) なかよし遠足(3組)	12月	30周年記念式典 保護者会 終業式 冬季休業日
7月	音楽鑑賞教室 セーフティー教室 歯科指導 終業式 保田臨海学校 夏季休業日(21日～31日)	1月	始業式 ふれあいの会 防災体験学習(4年) 防災施設見学(5年)
8月	夏季休業日(1日～23日)	2月	薬物乱用防止教室(6年) 学校運営協議会 2分の1成人式(4年) 6年生を送る会 クラブ見学(3年) 新1年保護者会 開校記念日
9月	始業式 眼科健診 耳鼻科健診 水泳記録会 水泳指導終了 歯科健診 運動会	3月	謝恩会 保護者会 外国語校外学習(6年) 修了式 卒業式 春季休業日

沿革の概要

<p>神田小学校</p> <p>明 9. 3.15 神田多町2丁目12番地に第1大学区第1中学区9番公立神田学校開校</p> <p>明 9.11. 佐柄木町21番地に校舎移転</p> <p>明11. 2.20 新銀町6番地に新校舎完成</p> <p>明19. 4. 1 神田尋常高等小学校と改称</p> <p>昭 4.11.18 鉄筋3階建ての新校舎完成</p> <p>昭22. 4. 1 千代田区立神田小学校と改称</p> <p>神竜小学校</p> <p>明42. 4. 1 私立柄越尋常小学校と神田尋常小学校の約60名の児童を集めて永富町6番地に東京市一橋尋常小学校開校</p> <p>明44. 9.11 東京市永富尋常小学校と改称</p> <p>大 6. 1. 1 東京市神竜小学校と改称</p> <p>昭 2. 6.28 鉄筋3階建ての新校舎完成</p> <p>昭22. 4. 1 千代田区立神竜小学校と改称</p> <p>昭24.11.21 特殊学級設置</p> <p>昭34. 4. 7 創立50周年記念式典挙行</p> <p>昭41. 3.25 閉校式を挙行</p> <p>合併後の神田小学校</p> <p>昭41. 4. 1 神田小学校と神竜小学校合併</p> <p>昭50. 4. 1 心障学級に情緒障害学級、訪問学級新設</p> <p>昭51. 2.24 創立100周年記念式典挙行</p> <p>昭52.12. 2 区研究協力校として「意欲的に自然にはたらきかける子どもの育成」の発表</p> <p>昭60.11. 9 創立110周年記念式典挙行</p> <p>昭62. 2. 6 文部省・区の国語科研究協力校として個人差に応じた学習指導の発表</p> <p>平 2.11.22 区研究協力校として「豊かな表現力を育成する指導法の工夫」の発表</p> <p>平 4.11. 5 全国家庭科研究会東京大会会場校として「家庭科」及び家庭科関連教科「学級活動」「生活科」の授業公開。区研究協力校として「意欲的に実践できる子どもの育成」発表</p> <p>平 5. 3.28 「さようなら神田幼稚園・神田小学校」の式典並びに集会を挙行</p>	<p>千桜小学校</p> <p>明 6.10. 東松下町57番地に第1大学区第1学区3番小学校として桜池学校開校</p> <p>明10. 3. 馬喰町3丁目に第1大学区第1中学区第11番小学校として千代田学校開校</p> <p>明14. 2.11 桜池小学校焼失により廃校</p> <p>明15. 4. 千代田小学校焼失により廃校</p> <p>明15.10.18 千桜小学校開設、もと桜池小と千代田小の児童を収容し、両校名より「千桜」と命名</p> <p>昭 4. 6. 3 鉄筋3階建ての新校舎完成</p> <p>昭22. 4. 1 千代田区立千桜小学校と改称</p> <p>昭47.12. 1 「ことばの教室」開設</p> <p>昭56.10.17 創立100周年記念式典挙行</p> <p>昭60. 4. 1 佐久間小学校との共存の教育開始</p> <p>昭62. 7.18 佐久間小学校との共存終了</p> <p>昭63. 1.26 都・区研究協力校として「一人ひとりのよさを発見し、伸ばす評価のあり方の発表」</p> <p>平 3.11. 2 創立110周年記念式典挙行</p> <p>平 4.10.22 区研究協力校として「自ら学ぶ意欲を育てる指導法の研究」の発表</p> <p>永田町小学校</p> <p>明40. 6.10 麴町区永田町1-19に東京市永田町尋常小学校校舎建設許可(16学級)</p> <p>明41. 6.18 開校式挙行</p> <p>昭12.10.18 新校舎落成式(現校舎)</p> <p>昭22. 4. 1 東京都千代田区立永田町小学校と改称</p> <p>昭50. 2.17 「あたたかい心を育てる指導」の発表</p> <p>昭58. 2. 4 第1回帰国子女教育研究発表会</p> <p>昭60. 2.14 第2回帰国子女教育研究発表会</p> <p>昭62. 2.10 第3回帰国子女教育研究発表会</p> <p>平元. 3. 4 創立80周年記念式典挙行</p> <p>平元. 6. 9 第4回帰国子女教育研究発表会</p> <p>平 2.10.24 国際教育交流馬場財団より「第一回馬場賞」受賞</p> <p>平 3. 6.28 第5回帰国子女教育研究発表会</p>
<p>千代田小学校</p> <p>平 5. 4. 1 学校設置条例の改正にともない千代田小学校となる。(4.6)開校式</p> <p>平 6. 2.26 校歌・校章制定式</p> <p>平 7.12. 6 新校舎着工</p> <p>平10. 1.30 区研究協力校として「進んで学ぶ千代田の子の育成」の発表</p> <p>平10. 4. 1 校舎移転 夢の課外授業を実施</p> <p>平13. 1.19 区研究協力校として「世界の人々と共に生きていこうとする児童の育成」の発表</p> <p>平14. 3.16 夢の課外授業を実施</p> <p>平15. 2.19 道徳授業地区公開講座を実施</p> <p>平16. 2. 7 「創立十周年を祝う会・記念祝賀会」を実施</p> <p>平18. 2.17 区研究協力校として「伝え合う力を高め 豊かにかかわり合える子ども」の発表</p> <p>平21. 2.25 「創立十五周年記念集会・同窓会」を実施</p> <p>平21.11.27 区研究協力校として「算数科における個に応じた指導の工夫」の発表</p> <p>平25.12.13 区研究協力校として「自分の思いや考えを適切に表現できる児童の育成」の発表</p> <p>平26. 2.22 「開校・開園二十周年記念集会・記念祝賀会・記念同窓会」を実施</p> <p>平30. 1.19 区研究協力校として「考え 広げ 深める 児童の育成」～思考力・判断力を育む授業づくり～の発表</p> <p>平31. 1.19 「開校二十五周年記念児童集会」を実施</p> <p>令 4. 2.18 東京都教育委員会人権尊重教育推進校として「自他を尊重し、認め合う児童の育成～仲間を大切に学びあう授業づくり・環境づくり～」の発表</p>	